

## ○コミュニティ推進組織が実施可能な事業を行っている各団体の現状

	山古志公民館	総合型クラブY-GETS	山古志住民会議 小さな山古志楽舎	おらたる（中越防災フロンティア）	社会福祉協議会山古志支所	山古志支所
所在地	【公民館】山古志体育館 【分館】種芋原、虫亀、竹沢、東竹沢、池谷	【事務局】山古志体育館	【事務局】やまこし復興交流館おらたる内	やまこし復興交流館おらたる	地域福祉センターなごみ苑	山古志支所
人員	1 山古志公民館【支所正規職員】3名 2 各分館 【分館長】5名 【主事】5名 【運営委員】20名	【常勤】2名 【児童厚生員】10名 【役員】8名 【運営委員】16名	【事務局】1名 【構成員】山古志住民会議：5名 小さな山古志楽舎：6名	【常勤】3、5名	【職員】2名	【正規職員】23名 【会計年度任用職員】10名 ※ 診療所・体育館管理含む
実施事業	1 山古志公民館事業 ・山古志文化展 ・俳句教室、チョークアート教室などの講座 2 各分館の事業 (1)種芋原分館 ・花いっぱい運動花壇整備・雪上レクリエーション大会 (2)虫亀分館 ・七夕祭り・そばまつり (3)竹沢分館 ・花いっぱい運動花壇整備 (4)東竹沢分館 ・東竹沢交流田田植え、雪中貯蔵酒掘り出し交流会・青葉台あじさい祭り・夏の花見会・二十村郷の合同盆踊り・東竹沢交流田稲刈り交流会 (5)池谷分館 ・三ヶ合同盆踊り ※上記の他、地域や集落の行事などに協力をしている。	1 各種プログラムの実施 貯筋体操教室、トランポピクス教室、ボクシング教室、健康体操教室など 2 サークル活動 ・バドミントン・ソフトバレーボール・卓球 ・太鼓会・バドミントン（スポ少） ・スキー（スポ少） 3 イベント ・ナイトウォーク・バドミントン交流会・ソフトバレー交流会・山古志総合レクリエーション大会など 4 その他 ・やまっ子クラブ（児童クラブ） ・放課後子ども教室 ・子育ての駅やまっこの運営 ・青空ぼうけん塾 ・健康スポーツ習慣化プログラムなど	1 地域全体の取組 (1)10.23中越大地震メモリアル事業 ・「復興の集い」の企画及び実施など (2)交流体験イベント ・昆虫採集 ・キャンプイベント (3)情報集積プラットフォームづくり ・「仮想山古志プロジェクト」の実施など 2 情報発信 ・HPの開設 ・PR動画・冊子「ラシクラス」の制作など	1 震災体験の伝承事業 ・視察の受け入れ ・山古志ガイド、語り部事業など 2 交流拠点事業 (1)地域外向け事業 ・総合窓口 ・情報発信（やまこしガイドマップ、スタンプラリー、ナビシステム、SNSなど） ・軽食提供事業など (2)地域内向け事業 ・おらたる通信発行（年6回、奇数月） ・地域内弁当 ・オレンジカフェ事業（市委託事業） (3)地域内外の交流事業 ・商品開発、食材開発 ・農産物集荷事業 ・カルチャー教室（木牛、ねこつぐら等） ・土産品コーナー、ECサイトの運営 ・ロータリーハウス・モデル棟の貸出と管理	1 住民参加型在宅福祉活動 (1)ふれあい型食事サービス事業 毎週木曜日（祝祭日、年末年始は除く）に昼食用の配食型で実施 (2)小地域ネットワーク事業 ひとり暮らし高齢者等への安否確認・援助活動 (3)福祉送迎サービス事業 医療機関への通院が困難な高齢者や障害者に対し、協力者の自家用車を用いた無料送迎支援 2 地域福祉活動推進事業 (1)買い物送迎サービス事業 (2)移動サロン事業 (3)除雪支援事業 ・除雪ボランティア活動の調整	○コミセン設置により検討できる事業（案） 1 コミセンが実施している市の事業 ・地域委員会（地区協議会等） ・敬老会 ・日赤協力金の募集事務 ・健康づくりに関する講座（自殺対策、骨粗しょう症予防、健康づくり推進、児童館育食） ・明るい選挙推進事業 ・交通安全協議会 ・防犯協会 2 コミセンが実施している他団体の事業 ・赤い羽根共同募金（社協） ・愛の協力募金（保護司会） 3 将来的に地域主体で実施可能と思われる事業 ・成人式
意見交換	○分館をコミセンに移行することに異論はない。事業も含め、分館自体が廃止になると思っていた。 ○コミセン化することで、事務作業が軽減されるのであればありがたい。 ×一つの集落、一つの分館の場合、集落行事を運営する役割を担っているため、集落の反対がある。 ○反対する集落は、行事の運営体制を考え直せばいい。（他分館の意見） ⇒各分館の意向を聞き取り、それぞれが独自で実施できる体制を検討する。	○組織立上げ当初から、地域に必要な事業に取り組んでいる。事業を継続していくことが重要だと考えている。 ○今後を考えると、財政状況は厳しい状況であるため、コミセン化の方向で進めてもらいたい。 △常勤スタッフの人件費については、今の水準を維持してもらいたい。 △スポーツ協会の様な役割を果たしてきているが、コミセンとなった場合はどうなるのか。 ⇒財政的に厳しい状況にあるため、コミセンへ移行することが望ましい。	【小さな山古志楽舎】 ×設立して2年と、間もない組織であり、今しばらく現状のまま独自の事業を実施していきたい。 ○若者世代を中心に、事業に参加してもらい活動を活発にしていく。コミセンとは連携していきたい。 ⇒団体、事業とも、現状はコミセンに組み込まず、連携団体として考える。	×地域バスの運営、雪かき道場など、事業規模が大きく、難度の高い事業があるため、組織としてコミセンへ移行することは難しい。 ×おらたる運営は、長岡市復興基金を財源に運営し、令和7年度までの運営委託契約となっており、今後の事業展開も独自に検討しているため、このタイミングでのコミセンへの事業移行はできない。 ⇒団体、事業とも、現時点でのコミセン移行は現実的ではない。	○社会福祉協議会が行っている、もしくは行うべき事業を実施することは可能。 ×この場合、財政支援は委託事業となるためできない。 →自主事業として実施となる。 ○山古志地区社会福祉協議会（地区社協）を組織化することは可能。 ○この場合、財政支援を受けて事業実施は可能。 →×この地域での課題（人口とマンパワーの重複）解決にはならない。 →×コミセン協議会としての事業規模が大きくなる。 →？社協の存在意義が問われる。 ⇒現状、コミセン事業として行うのは難しいと考える。	※今後の動向により検討する。
凡例	【団体の意見】 ○、△、× 【方向性(案)】 ⇒					
	⇒分館を加えたコミセン体制案ができた段階で、年度末に再度意見交換を行う。 ⇒上記を踏まえ、分館事業のコミセンへの移行、公民館の廃止を支所で検討する。	⇒スポーツ協会の様な役割については、支所が調整していく。	×コミセン化と同じタイミングで、法人格を目指している。 ⇒団体、事業とも、コミセンには組み込まない。			